

(様式1)

平成30年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県漕艇場 スポーツ振興課

2 施設所在地
富山市岩稲20-1

3 施設設置年度
平成5年度

4 設置目的
県民の体育及びレクリエーションの振興を図る。

5 施設概要
コース(1,000m×6レーン)・・・日本ボート協会B級公認コース
(主な設備等)
・艇庫(100艇収容)
・宿泊室(8室・64名)、食堂、浴室、会議室

6 指定管理者
公益財団法人富山県体育協会

7 指定期間
5年
平成30年4月1日 ～ 令和5年3月31日

8 利用者数及び利用(使用)料金収入の状況

(1) 利用者数(人) ※この他、参考となる指標があれば追加

H26	H27	H28	H29	H30
18,377	16,758	19,567	17,877	17,998

(2) 利用(使用)料金収入(千円)

H26	H27	H28	H29	H30
996	878	1,029	890	1,225

(3) 利用料金収入見込み額(利用料金制導入施設の場合)

H26	H27	H28	H29	H30
874	874	874	874	968

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

- ・平成30年度は、平成29年度に比べ湖面の利用可能日が多く、合宿での利用が増加したため、利用者数・料金収入ともに増加した。
- ・自然条件により湖面の使用が制限されるという施設の特徴があり、予約しても利用できないことがあるなど、利用者増の取組みが、そのまま利用者増につながりにくい面があるが、引き続き、関係団体と連携して、教室事業の実施や、合宿利用の促進など、利用者増に努めてもらいたい。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ・各種大会、団体利用時において、要望に応じて開館時間の繰上げ及び合宿に伴う休業日の臨時開館に柔軟に対応した。
(繰上げ開館 5件、臨時開館 10件)
- ・施設利用者へのアンケート調査、競技団体からの要望聞き取り等により、施設に対する要望、利用者ニーズの把握に努めた。
- ・施設利用者の便宜を図るため、引き続き飲料等の自動販売機を設置した。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

- ・県ボート協会等と連携し、初心者を対象としたボート教室を開催した（年2回）。
- ・競技団体主催のボート教室で、指導者、安全対策員として教室開催に協力した（年間20回開催）。
- ・競技団体主催の大会で、コースの設営、会場準備など、実施・運営に協力し、利用促進を図った。
- ・少年剣道など、ボート競技以外の宿泊についても、積極的に受け入れ、施設の有効利用に努めた。また、県総合体育センターと連携し、同センターで受け入れできない宿泊希望者を受け入れる体制づくりに努め、宿泊施設の有効利用を図った。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：通年 実施方法：①事務所前にアンケート用紙を設置、宿泊団体に依頼 ②競技団体指導者や利用者への聞き取り
回答者数	回答者数：アンケート回答 33人
結果	・職員の対応がよい 91.0%、今後も（時々）利用したい 100.0% ・意見・要望等 調理器具が少ない、脱衣所が寒い、トレーニングマシンを増やしてほしい 等
結果を踏まえた改善事項	・調理器具を増やした。 ・脱衣所については、利用者の要望があれば暖房器具を貸し出すなどの対応を検討している。

②その他利用者の声を反映させる取組み

競技団体からの要望聞き取り等により、施設に対する要望、利用者ニーズの把握に努めた。

③主な苦情と対応

—

(5)個人情報保護の取組み

個人情報取扱留意事項を職員に周知徹底しており、適切な個人情報保護に努めている。

(6)関係団体との連携

- ・競技団体が実施した小学生のボート教室において、安全に教室が開催できるよう、湖面の指導及び安全管理を徹底した（年間20回）。
- ・富山県ボート協会、富山市ボート協会が主催する県民体育大会、県高校総体、富山市神通峡レガッタなどのボート大会において、コース設営、会場準備など大会の実施・運営に協力した。
- ・地元の祭礼や新春行事に参加し、地域との親交を図り、施設の周知を行った。

(7)施設・設備の維持管理

施設・設備は概ね適切に管理されている。

(8)危機管理・安全管理などの取組み

- ・職員及び主な利用者を対象とした心肺蘇生法講習会を実施し、事故発生時の応急処置が行えるよう対策を整えた。
- ・事故発生時の早急な対応のため緊急連絡網を作成した。
- ・湖面利用における事故防止のため、ダム湖を管理する北陸電力神二ダム管理事務所と常に連携を図り、安全管理に努めた。
- ・安全監視艇（指導艇）のモーターボートを常に整備し、湖面上の事故に素早く対応できるよう対応をとった。
- ・湖面上の流木の除去や危険箇所の確認、安全管理のための巡視等を実施し、事故防止に努めた。
- ・毎年変化する練習水域の護岸状況や危険箇所を確認し、ハザードマップを更新するとともに、利用者にわかるよう艇庫前に掲示し、危険箇所の把握や通行ルールを周知徹底し、事故防止に努めた。
- ・県有艇で不具合が出ていた足固定部分の改修を実施し、利用者の安全確保を図った。

10 所管課の管理運営確認状況

	有/無	回数(有の場合)
①定期報告の受理	有	12
②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認	有	1
③個人情報に関するトラブルの有無	無	—
④危機管理・安全管理上のトラブルの有無	無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

無

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

- ・競技性が高く、利用者が限られていることや、自然条件により施設使用が制限されることから、今後とも、関係団体等と連携し、より一層の合宿利用の増加や、初心者を対象とした教室等の充実により、利用促進に向けた継続的な取り組みを行っていく必要がある。
- ・引き続き、県総合体育センターとも連携し、競技団体以外への会議室や宿泊室の利用推進に努め、新たな利用者の開拓と、競技の知名度向上につなげてもらいたい。